

障がいのある人の 家族を理解する

日時 2025(令和7)年**11月13日**(木) 13:00～15:30
会場 石川県**地場産業振興センター**
本館2階 第1研修室 (金沢市鞍月2丁目1番地)

Akira Ueda/photo

13:05 演劇 **自分らしい笑顔でいるために**
13:25 ～「そら組」はこうしてできた～

演者 ゆかいなおばジェンヌ「**そら組**」
(石川県立明和特別支援学校 元 保護者会のお母さんたち)

13:30 講演 **障がいのある人の親として生きる**
15:30 ～親の声を聴く、老障介護のゆくえ～

講師 **徳田 茂**
(金沢市障害児通園施設ひまわり教室元代表)

お申込み 11月7日(金)まで先着順・無料 (どなたでもご参加いただけます定員140名)

①二次元コードから ②電話 ③メール「権利擁護研修」とタイトルに付記
氏名(フリガナ)・年齢・所属・連絡先・配慮の可否をお申し出ください。

問合せ 金沢市障害者基幹相談支援センター
お申込み二次元コード 〒920-0912 金沢市大手町3番23号金沢健康プラザ大手町西館1階
 **電話**076-254-5656 平日8:30～17:00 **FAX**076-254-5858
メール：kikan-kanazawa@arrow.ocn.ne.jp
主催：金沢市障害福祉課・障害者基幹相談支援センター

演者 ゆかいなおばジェンヌ 「そら組」

(ゆかいなおばじえんぬ「そらぐみ」／
石川県立明和特別支援学校 元 保護者会のお母さんたち)

私たちは特別支援学校の保護者会活動で知り合いました。子どもの障害の種別はさまざまです。

毎日、寝る間もない介護、介助生活 意思疎通が取れない育てにくさ

こんな大きな子がなんで？と社会からの批判的な言葉や視線 肩身がせまい
孤立・・・ などなどつらい経験もしてきました。

保護者会行事で、私たちが企画して子ども達と歌ったり演劇をする場が何度かあり、子ども達、保護者、先生方の笑顔を見て嬉しくなり、自然に笑っている自分に気づき、心が揺さぶられる瞬間がありました。

互いを相憐れむだけではなく、障害のある我が子を1日でも長く見守っていくためには、自分自身が「自分らしい笑顔」でいることが大切なのだと…。

現在、高齢者や障害のレベルに関係なく、みんなが笑顔になれる企画を考えて、施設や公民館などに慰問活動をしています。

この先、私達も年老いて行きます…障害のある子どもと生きていく中で心配はつきませんが、泣いても笑っても同じ一生なら、一生一緒に笑っていたい！楽しんでもらいたい！という思い、この活動が私たちの生きる力になっています。

講師 徳田 茂

(とくだ しげる／
金沢市障害児通園施設ひまわり教室元代表)



この社会には様々な背景を抱えた人々が生きています。そこには助け合いもあれば激しい競争もあります。残念ながら差別もあります。その社会を少しでも暮らしやすくするための要が「共に生きる」という生き方です。

徳田茂さんは、障害の種別を問わない通園施設ひまわり教室を創設されました。「いっしょに居る」ことで子どもたちは輝きます。またお母さんたち個々の思いを聴き、支え合う関係づくりを大切にして、地域に開かれる教室を目指してこられました。

多くの人は、障害のある子どもの親になったことを契機に自分の中の差別意識に気づきます。障害のある子どもと共に生きていくためには、親は自分を見つめ直し、自分の在り方を変えていく“生き直し”が必要、と徳田さんは語ります。

障害の有無を問わず、私たちは自分自身の内なる差別意識に向き合ってみること、また社会に有る無知や無関心についても見つめ直してみることが大切なのではないのでしょうか。

写真 上田 哲 (うえだ あきら)

1982年生まれ。15歳で電動車椅子に乗り始め、比較的自由な行動が可能になると、一人で富山市内を歩き、自分の世界を少しずつ広げた。

16歳でデジタルカメラに出会い、写真に興味を持ったが、身体にハンディキャップを持つ哲は、主に手が不自由だったため、手でシャッターを切っても、画面のぶれた写真しか撮ることができなかった。しかし、「どうしても写真が撮りたい」という哲の強い思いが一つのアイデアを生む。電動車椅子にカメラを固定し、シャッターを切る、という独自のスタイルで写真を撮影、近年はカメラの技術発達によりリモコンシャッターにて撮影。

第2回とやま森の四季彩フォト大賞、越中アートフェスタ2009入選、富山市美術展2015入選ほか多数

